

アジア研究教育ユニット 2024 年度教育研究報告書

事業課題名	アジア日本研究ネットワーク会議における教員・学生の招へい
代表者名	河合 淳子
事業概要 (600 字程度)	「アジア日本研究ネットワーク」は、各国の日本研究及びその関連分野において研究教育に携わる人達が集い、議論する場となることを目指して、2014年1月に発足した。KUASUの短期の海外学生の受入・本学学生の海外派遣事業に関わる大学の所属教員を中心に構成されていることが一つの特徴である。本ネットワークは、KUASUの支援の下、「京都大学アジア研究国際コンソーシアム」(KICAS)と連携し、活動を進めてきた。 これまで第1回、第2回(2014年、2015年)は本学で開催、第3回以降は海外の協定校が当番となり、2〜3年に一度の頻度で開催してきた。3回以降の開催日、開催場所、テーマは以下の通りである。 第3回 2017/2/18-2/19 チュラーロンコーン大学 日本文化の可能性 第4回 2019/3/29-3/30 チュラーロンコーン大学 日本文化における空間 第5回 2022/3/5 国立台湾大学 (オンライン) アジアにおけるパンデミック後の日本学を考える 第6回 2025/3/22-3/23 国立台湾大学 「つながり」と「きずな」の日本文化 今回(第6回)は、コロナパンデミックによる隔離を経て、2019年以降の対面式で開催した。同ネットワーク会議は、基調講演、研究発表、学生研究発表の三つを軸にしている。当経費により、基調講演者、大学院生の派遣が実現した。大学院生の海外派遣が可能となったのは今回が初めてで、意義深いものであった。
成果の概要 (800 字程度)	「アジア日本研究ネットワーク 第6回会議」(会長：呂佳蓉 国立台湾大学准教授)は、アジア日本研究ネットワーク、国立台湾大学語言学研究所そして KUASU の共催により開催された。会場は国立台湾大学の凝態中心楊金豹講演廳であった。 当会議の趣旨を、開催通知書より引用する。「コロナパンデミックによる長期的な隔離生活は、人々が日々当たり前に享受していた「つながり」と「きずな」の重要性を改めて顕在化させた。(中略) 日本文化は古来、多様な歴史的背景と社会的文脈の中で、内外双方において柔軟な結びつきを育んできた。会議では歴史、言語、芸術、宗教など多領域にわたって形成される「つながり」と「きずな」の具体相を探究し、それらがいかに社会や文化を支えてきたかを問い直す。(後略)」 この趣旨に沿って、まず、家本太郎氏(本学准教授)により「日華交流史管見」と題する基調講演が行われた。帯木蓬生(作家・精神科医)の日本史の関する諸作品を軸に、日本における中華(漢語)文化の受容・理解・態度を概観しながら、日華交流史の諸相・日本人の自意識・歴史観に関する考察が生き生きと語られた。また、学生の国際交流の最前線を担う教員が集う当会議の特性を念頭に、豊かな経験に基づいて、学生の国際交流のあり方に対する視点が提供された。 次いで、各国の会員による研究発表5件、実践報告3件、学生による研究発表4件、報告1件が行われた。いずれも日本文化に内在する「つながり」と「きずな」を評価することに挑んだ発表で、発表後の議論も活発に行われた。今回の支援対象である大学院生2名は日頃の研究成果について、本会議のテーマである「つながり」と「きずな」から捉え直し、貴重な知見を提供した。 アジア日本研究ネットワークは設立から10年以上が経過した。会員の多様な学問的バックグラウンドを生かし、日本研究や国際的學生交流について実質的な議論を行う場となっている。今後も会員間で連携しながら、活動に展開していくことを確認した。

アジア日本研究ネットワーク第6回会議

「つながり」と「きずな」の日本文化

日時：2025年3月22日-23日

会場：国立台湾大学 凝態中心 1F 楊金豹講演廳

参加費：無料 会議の言語：日本語

＜基調講演＞「日華交流史管見」

家本太郎（京都大学国際高等教育院准教授）

2025年3月22日（土）

2025年3月23日（日）

- 13:20 開場
13:30-13:40 開会の挨拶
アジア日本研究ネットワーク
委員長 呂佳蓉（国立台湾大学）

基調講演

- 13:40-14:40 家本太郎（京都大学）
「日華交流史管見」
14:40-14:45 記念撮影
14:45-15:00 休憩

研究会I ＜研究発表＞

- 15:00-15:30 西島薫（公立小松大学）
「南加賀の民話にみる異人のトポロ
ジー」
15:30-16:00 チョムナード・シティサン（チュラーロ
ンコーン大学）
「くも合戦の現在と未来：「始良市加治
木町くも合戦大会（2023年）」の映像を
通して」

16:00-16:10 休憩

研究会II ＜研究発表＞

- 16:10-16:40 張子康（長崎大学）
「東アジア地域における仲介者としての
「通事」：その性質の比較検討」
16:40-17:10 呂佳蓉（国立台湾大学）
「ことわざに見る人とのつながりのメタ
ファー」

研究会III ＜事例報告＞

- 9:30-10:00 佐々木幸喜（京都大学）
「初中級日本語学習者のための専門日本語クラス
試案」
10:05-10:35 朴麗玉（国立済州大学）
「済州島の地域性を活かした教育事例」
10:35-10:45 休憩

研究会IV ＜事例報告／研究発表＞

- 10:45-11:15 河合淳子（京都大学）
「短期留学プログラムの運営における緩やかな
「つながり」－社会的組織論の観点から」
11:20-11:50 黄鈺涵（国立台湾大学）
「オンライン国際協働学習（COIL）の実践と成果
－台湾人日本語学習者の自己評価を中心に－」
11:50-13:30 昼休憩（兼総会）

研究会V ＜学生研究発表＞

- 13:30-14:00 李緒葶（国立台湾大学生物化学技術学科四回生）
「生物医学専門用語の表記選択：カタカナ表記と
漢字表記の分化とその要因分析」
14:00-14:30 秋山ゆい（京都大学人間・環境学研究院生）
「日本の公教育におけるつながりの文化」
14:30-14:45 休憩
14:45-15:15 豊田由佳（国立台湾大学華語教学修士課程院生）
「アニメ駆動型学習の試み：日本語の擬声語教育
を例として」
15:15-15:45 宮田りく（京都大学人間・環境学研究院生）
「清末期の留日中国人学生：曾志恣・曹汝錦夫妻
を中心に」
15:45-16:15 陳彦至（国立台湾大学日本語文学学科二回生）
簡彰諺（国立台湾大学情報工学科三回生）
「京都サマープログラム2024参加体験報告」
16:15-16:35 総括討論
16:35-16:40 閉会の挨拶

主催
アジア日本研究ネットワーク

連絡先：「アジア日本研究ネットワーク」
事務局
(本件担当：長崎大学 張子康)
【E-mail】 zikang.z@nagasaki-u.ac.jp
【URL】
<https://asiannetwork4jpstudies.blogspot.com/>



参加申し込み

